

## 「わたし」って特別！？

令和8年6月16日

### 「縁」をテーマに北嶺祭開催！「縁系」企画と感動！

5月29日校内発表、30日一般公開と、二日間にわたって、富士宮北高校の文化祭、北嶺祭が行われた。今年も大変多くの皆さまにお越しいただいたこと、本当に感謝したい。今年は、中学生の参加も多く、ステージの部が行われた第一体育館には、終日多くの参観者に来ていただいた。本校は、校訓のとおり、活気に溢れたものであり、自分たちで楽しむこととともに、観客の皆さまにも楽しんでもらえるような演出も大変素晴らしい。

さて、今年の北嶺祭のテーマは「縁」である。北嶺委員長から、「「縁」には、人とのつながりを大切にしようという思いが込められています。今年は初の4校合同の行事もあります。このテーマのもと、人とのつながりを大切に、今年の北嶺祭が最高のものとなるようにしましょう。」と挨拶があった。生徒会長も、「仲間と同じ時間を過ごせることは、決して当たり前ではない、特別な巡り合わせだと思います。」との挨拶もあった。私は、生徒たちの間に、今だからこそ、「人とのつながりを大切にしよう」という言葉が出てくるのがとても嬉しい。社会全体、富士・富士宮という地域、学校の課題は、「人とのつながり」にあると、生徒たちの「目」がしっかりと育っていると感じるからである。そして、一人ひとりが特別な個人として、縁を探究してくれたらと願っている。

#### ●生徒会企画「縁系（えにし）」●

その中で、今年の生徒会企画は「縁系」である。パンフレットによれば、全校生徒に配られるリボンには、それぞれの「色」と「番号」が。そのリボンと同じ色と番号を持っている人が、あなたの「運命のペア」です。一日目の校内発表中に、運命のペアを見つけ、2人揃って生徒会室前へ来てください!というものである。そして、生徒会室前に、フリー掲示板を設置し、「○色○番を探しています!」など呼びかけに活用してください。という。1日目は本当に多くの生徒が、運命のペア探しに夢中になっていた。私も校長挨拶で少し呼びかけをしたら、生徒が来てくれた。とても嬉しかったし、この素敵な企画考案と、それをみんなで楽しんでいた生徒たちをとても誇らしく感じた。



### 文化の香り（薫り）を感じるには！？

今年の文化祭で、私は全ての展示、発表を見られたわけではないので、本当に心苦しく思う。サイエンス部は、新たな装いで、今年度動き出していることを感じたが、「わくわくサイエンス祭り」を開催。茶道部は、緊張がこちらにも伝わってくるが、文化の伝承を大切に感じさせる「一期一会」。写真部は、一瞬の瞬間を切り取ると、その前後のイメージーションが膨らむことを教えてくれる「let's take pictures」。KICは、生徒が案内してくれながら「let's enjoy English together!!」で自らの英語力のなさを実感。ビジネス部も、新たな企画にチャレンジ中で「遊べるプログラミング展～micro bit 作品展示&体験～」を紹介。これに、富士宮分校が「ふらっと陶木カフェ」（陶芸班、木工班、メンテナンス班）「育てる×わくわく（work work）Studio」（クラフト班、農園芸班）と日常の活動をもとに、一生懸命な姿を見せてくれた。これらは、まさに文化祭の意義である「平素の学習活動の成果を発表し、自己の向上の意欲を一層高める」ことに寄与するものだと思う。顧問の先生の指導、生徒の直向きさ（ひたむきさ）、保護者の温かな支援に心から感謝したい。

「文化の香り（薫り）」を感じるという言葉を聞く。文化の香りとは、当然、物理的な匂いではなく、その世界の歴史的な背景による「気品」や、アカデミックな洗練された「知性」など、目に見えないが、「わたし」が感じるものだと思う。

そして、Culture がラテン語の Colere（土地を耕す）から由来し、心を耕す教養の意味を持つようになったことは衆知のことであるが、やはり心のゆとりや、生活の「遊び」を感じる余裕が大切だと思う。特別なことはいらない。他人と比べたり他人と競ったりせず、やってきたことを披露する。そして、受け取る。それが文化部の発表の良さである気がする。



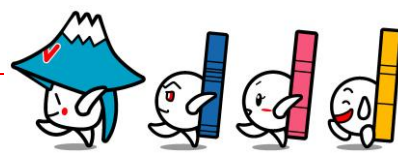
## 文化的要素と、富士宮北高校との特別な「縁」

私ごとで恐縮であるが、今年の北嶺祭のパンフレットに、「縁」をテーマに挨拶を書いてほしいと言われて次のようなことを書いた。

\*\*\*私にとって「縁」とは、打算がなく、今しかないというタイミングで訪れる、人や出来事との「偶然の出会い」を指す。そして、この「縁」を感じることは、目の前のことに誠実に向き合っていない限り、決して「降りてこない」感覚だと思うのです。(縁を感じるができるのは、それなりに難しいということ)

この誠実さを積み重ねていると、自分自身、そして社会全体が「縁」の連鎖で成り立っていることに気づく。「社会に愛される人」とは、そうした目の前の縁を一つ一つ疎かにせず、大切にしている人だと思う。この文化祭では、自らを出して、思いをぶつけ合って準備しよう。見にきてくださる皆さまに、最高に誠実で、あなたらしいパフォーマンスを届けよう。それが「偶然」降ってきた縁を「一生」の縁に変える鍵になるでしょう。\*\*\*

国連の機関の一つであるユネスコは、その総会で、「世界人権宣言」および1966年締結の2つの国際人権規約「市民的及び政治的権利に関する規約」「経済的、社会的及び文化的権利に関する規約」を含むその他の国際規約にうたわれる人権と基本的自由を実現するために努力すると宣言する。そこでは、文化的多様性と、文化的権利の行使に関する規定として、文化を、特定の社会または社会集団に特有の、精神的、物質的、知的、感情的特徴を合わせたものであり、芸術・文化だけではなく、生活様式、共生の方法、価値観、伝統及び信仰も含むものであるとする。私たちは、文化祭でステージ、装飾、展示、模擬店、招待試合、キッチンカー販売、多様な生活に関わるものを持ち込んだ。これらは、(学校)社会を形成する全ての要素を、私たちのアイデンティティとして大切にしようというものであると理解したい。「難しいこと書くなよ!」と言われるかもしれないが、「偶然の出会い」は、誠実に向き合うとともに、日頃全く異なる領域(人のつながりも)とコラボした時に「降ってくる」可能性が高くなると思う。文化祭(特に一般公開)は、それが私たちに起こるというよりは、来ていただいた保護者、中学生、地域の住民の人たちに、「富士宮北」に、特別な「縁」が「降りてきてくれて」いれば嬉しく思う。そして、今回の文化祭にある全ての文化的要素がそうなる可能性を秘めていたと私は思っている。



## 「わたし」を知ることは難しい!?

「わたし」って特別!?!と、「縁」を特別なものと感じたことから、この通信は始めた。

さて、特別支援教育における「自立活動」を知っているだろうか。特別支援学校の目的について、学校教育法第72条で、「特別支援学校は、(略)準ずる教育を施すとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けることを目的とする。」ことが示されている。「~とともに、」以降の部分でまさに、「自立活動」の指導を中心に行われている。この考えは、すでに高等学校にも適用されている。その教育活動の一つが、「通級指導」である。

「自立活動」は、個々の生徒が自立を目指して、(障害による=特性によると置き換えた方がよい) 学習上、生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取組を促す教育活動であり、個々の状態や発達の段階等に即して行うことが基本とされている。ではどのように行うか?

まず、個々の状態を踏まえなければならない。そこで、大切なことは、自らの実態を的確に把握するため、個別の指導目標や具体的な指導内容を定めた「個別の指導計画」である。そして、この個別の指導計画を整理するために、6つの領域で自らを確認する。(1)健康の保持(2)心理的な安定(3)人間関係の形成(4)環境の把握(5)身体の動き(6)コミュニケーションの6分野で確認する。私たちは、自分の特性を理解できているのだろうか。教科以外の教育に関わることは、案外、感覚に頼っている。少し、学びの範囲を広げながら生徒に対応する時代であることも認識したいと思っている。

特別支援学校

高等部学習指導要領

平成31年2月 告示